

ペンステモン咲きキンギョソウの省力的育苗方法と切り花品質

煩雑なキンギョソウの育苗作業が、セル成型トレイを用いた無仮植育苗で省力化され、育苗日数を50日間から20日間に短くできる。また、切り花は到花日数が短くなり、年内収量が多くなる。

農業研究センター 農産園芸研究所花き研究室（担当者：佐渡 旭）

研究のねらい

花がアサガオのように開くペンステモン咲きキンギョソウが、ストックやスイートピーに替わる品目として注目されている。しかし、仮植が必要な従来の育苗法では育苗日数が長く煩雑で、さらに12月出荷作型では播種作業が高温期のため発芽時の温度管理に課題がある。そこでセル成型トレイを利用した、高温期における省力的な育苗技術を確立する。

研究の成果

- 1.発芽率は、育苗温度20 ～ 30 ℃では5日目で90%以上、33 ℃では11日目で60%、35 ℃では約3%となる（図1）。
- 2.従来育苗法では、育苗日数が50日を要し、到花日数が124日であったが、セル成型育苗では、20日育苗で到花日数が112日と最も短くなる（図2）。
- 3.株当たり年内採花本数は、育苗日数20日が従来育苗法より多くなり、切り花品質も同等である（図2、表1）。
- 4.セル苗を用いると定植作業が容易になり、仮植作業がなくなることで省力化が図られる。

普及上の留意点

- 1.播種機を利用すると、更に省力化ができる。
- 2.中生品種を用いて年内出荷を目的とする場合、定植時期を9月上旬にする。

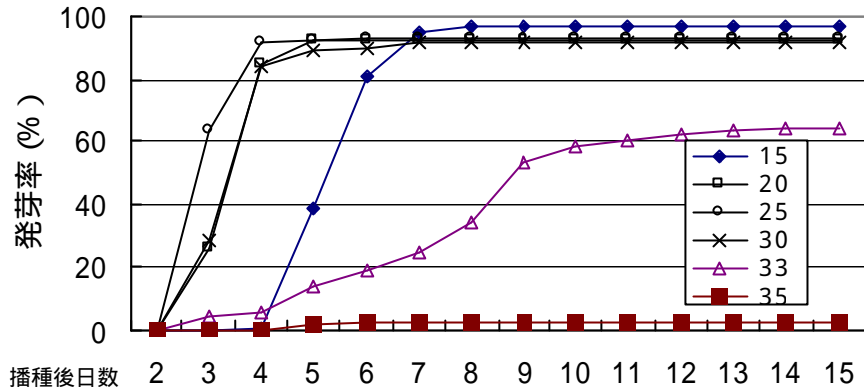


図1 育苗温度がキングヨソウの発芽率の推移に及ぼす影響
* アポロシナモン他 3品種の平均

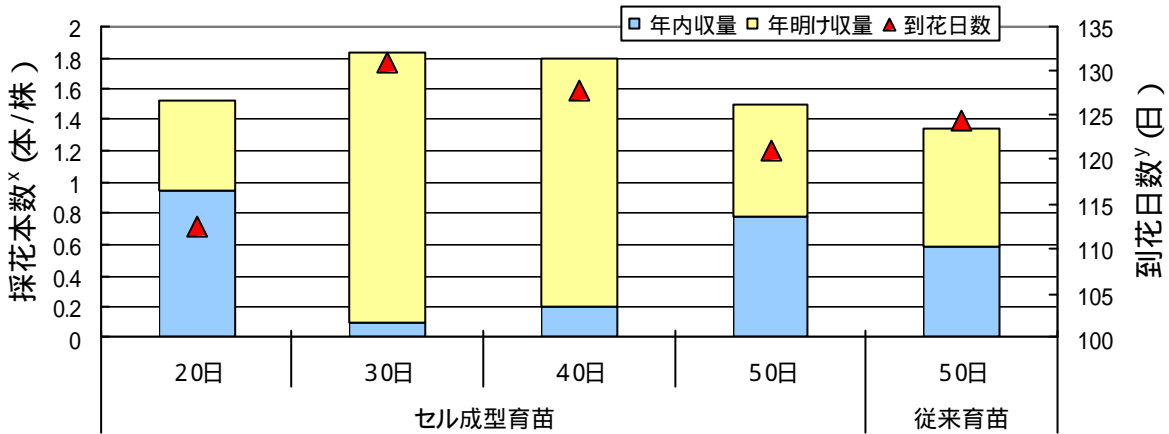


図2 育苗日数が採花本数及び到花日数に及ぼす影響

(備考) 供試品種：アポロシナモン（ペンステム咲き中生品種）
 仮植（慣行）：200穴セルトレイに播種後、25日後に128穴トレイに仮植
 無仮植区：200穴セルトレイに播種
 育苗培土の種類：与作N150（N150mg、P150mg、K150mg / L）
 定植日：9月15日 摘心日：10月20日 調査期間：採花開始日～3月31日
 x: 採花本数は、外品（奇形、曲がり、花飛び、ボリューム不足）を除く
 y: 到花日数は、定植日から採花日までの日数の平均したもの

表1 育苗日数の違いが採花開始日及び切り花品質に及ぼす影響

試験区	採花開始日	切花長	切花重	花穂長	茎径	小花数	調整重 ^x	
育苗法	育苗日数	(日)	(cm)	(g)	(cm)	(個)	(g)	
セル成型育苗法	20日	12/20	128	60	19.2	5.6	21.6	27.6
セル成型育苗法	30日	12/25	134	55	18.8	5.2	20.0	25.1
セル成型育苗法	40日	12/15	128	54	17.0	4.9	19.5	24.5
セル成型育苗法	50日	12/1	132	70	21.1	5.9	22.7	28.5
従来育苗法	50日	12/19	135	72	20.1	5.8	22.7	30.4

(備考) ^x調整重：切花長80cmに切り揃え、下葉を20cm欠いた後の切花重
 供試品種：アポロシナモン（ペンステム咲き中生品種）
 調査期間：採花開始日～3/31日